

種名	コハクチョウ Cygnus columbianus 												
	分類 ガンカモ目 ガンカモ科												
特徴	くちばしの黄色がやや小さい、オオハクチョウによく似た鳥。ユーラシアと北米大陸の寒帯で広く繁殖し、日本は冬鳥として渡来する。主に北日本や日本海側の地方で越冬し、青森県小川原湖、福島県猪苗代湖、滋賀県琵琶湖、島根県中海などが有名である。オオハクチョウより南へ渡る傾向があるが、これはコハクチョウの方が体が小さく、体温の維持に相対的にエネルギーがいることによる。												
生活	越冬地での生活はオオハクチョウと似ている。家族群を単位とした群れで生活し、水草を主な餌としている。水面から飛び立つ時は長い首を後に曲げ、頭を背中の中に入れていていることが多い。警戒すると首をいっぱい伸ばして、あたりの様子をうかがう。繁殖地では湖の浅瀬や水辺の地上に、枯れ草や藻類で火山のような円錐形の大きな巣を作り、3～5卵を産む。												
声	オオハクチョウに似た声だが低く、「コホッコホッ」と短く鳴くことが多い。また、鳴き交わしもオオハクチョウほどやかましくはない。飛翔中は「コォーコォー」とか、少し濁った声を出す。												
見分け方	くちばしの黄色い部分がオオハクチョウより小さい、この黄色い部分の形は個体によって違いがあり、それを用いて個体識別をすることも可能である。												
時期	(月)	1	2	3	4	-	-	-	-	-	10	11	12
その他	全長(L) 120cm 翼開長(W) 177cm												
参考文献：山溪カラー名鑑 日本の野鳥													